

# たいよう新聞

485号

6月10日発行

## 未来を創る人財投資!

## 最新VRで挑む新入社員研修の最前線

持続的な企業成長の鍵は、一人ひとりの社員にあります。当社が注力する「教育」の現場では、今のような革新が起こっているのでしょうか。名古屋支店のIさんに、最新のVR（バーチャルリアリティ）技術を駆使した安全教育や、個々の成長に寄り添う指導方針を聞きました。未来を担う新戦力を育てる、独自の教育体制とその意義に迫ります。



### 新入社員研修の目的

### 安全・品質の土台を築き、早期の活躍を支える

人財の確保と育成は、当社における重要課題の1つです。新入社員研修は、現場で安全に働き、早期に即戦力となるための土台作りとして、入社式直後の4月1日から15日までの約半月間実施しています。

研修は健康診断や役員講話から始まり、当社の経営理念や、2030年度を見据えたビジョン「心躍る未来へ」について深く学びます。その後、安全衛生や法令遵守といった専門知識、報告・連絡・相談やビジネスマナーなどの基礎知識を習得。さらに、測量研修や車両運転研修などの実技を通じ、業務に必要なスキルを体感しながら身につけてもらいます。



名古屋支店 工事部  
副支店長兼部長

Iさん



## 飽きさせない工夫

### VR教育で「自分事」に。 没入感で磨く安全意識

研修内容を自分の中に浸透させるためには、興味を持って取り組める飽きのこないプログラムであることが欠かせません。そこで**今年度からは新たに、VRを活用した安全教育を導入**しました。

専用の機器と手袋を装着し、墜落や建設機械との接触、吊り上げた荷物の落下といった災害を仮想空間で疑似体験します。例えば**感電のシチュエーションでは、手袋を通じて実際に手にビリッと電気が走るなど、極めてリアルな体験が可能**です。体験した新入社員たちは一様に驚きを見せており、事故の危険性を「自分事」として捉える高い学習効果を実感しています。



## 研修の成果

### 準備期間が自信に。現場で 頼もしさを増す新戦力

約半月間の学びを通じて「アイドリング」を済ませてから現場へ配属されるため、新しい知識の吸収がスムーズになり、現場でも非常に頼もしく感じています。実は新入社員からは「同期との時間を共有したい」「現場で使う実務的な計算方法などの座学をもっと学びたい」と、**研修期間を1ヶ月に延ばしてほしいという前向きな要望も出ています**。各支店への早期配属ニーズとのバランスを見ながら、今後の期間設定を検討する予定です。また、当社の研修はこれで終わりではありません。半年後の10月には役員主体のもと、現場でどのような体験をしてきたかを各自がPowerPointでまとめる振り返りの発表会を実施し、さらなる成長を促します。



## モチベーションを高めるコツ

### 「できなくて当たり前」。 焦らせない寄り添いの指導で、 自立を後押し

講師として接する際は、現場を知らない新入社員に対し「丁寧に説明すること」を最優先としています。例えば現場見学では、**事前に会社で図面を配布し、ビデオを見て予習してから現場へ**向かいます。地下の深い現場や建築現場の上層階など、実際のスケールを肌で感じることは座学以上の学びとなり、モチベーション向上につながります。

また、免許を取得して間もない社員も多い車両運転研修では、**自社の駐車場で練習した後、社員が同乗して公道を約1時間走行**します。「バックで駐車できない」「車線変更で時速20kmまで減速してしまう」といったハプニングもありますが、決して焦らせたり、きつい言葉で萎縮させたりすることはありません。「できなくて当たり前」を前提に優しくアドバイスすることで、安心して学べる環境を整えています。



## 今後の展望

### 持続的な成長を支える 人財への投資

教育には相応の費用を要しますが、当社はこれを未来への「人財投資」および「安全投資」と捉えて重視しています。基礎を徹底的に学ぶことが中長期的な業界内での競争力につながり、一人ひとりの持続的な成長を支える土台になります。今後も新入社員には、社会に貢献する仕事の意義を実感し、楽しく働きながら「心躍る未来へ」向かって歩んでほしいと願っています。

# 最前線レポート

## 川本製作所 土岐第2工場計画

当社にとって過去最大級となる地盤補強工事が2026年3月に無事完了しました。通常の4倍規模という圧倒的な作業量の壁を越えられた背景には、現場スタッフの確かな遂行力、社内のバックアップ、そして元請・協力会社の皆様との力強い連携がありました。

### 現場概要

現場名	川本製作所 土岐第2工場計画
施工期間	2025年12月17日～2026年3月16日
場所	岐阜県土岐市内
発注者	株式会社川本製作所
元請	清水建設株式会社
現場体制	当社3名、協力会社7社(14名)
施工目的	建築構造物の地盤補強工事
施工概要	ソイルセメントコラム地盤改良(機械攪拌式深層混合処理工法)。セメント系固化材のスラリーを吐き出しながら地盤を掘削攪拌し、柱状の地盤改良体を築造する。



名古屋支店  
環境開発部 係長 Gさん

### 現場の特徴

山間部を切り開いた広大な土地での施工であることが特徴です。敷地面積の広さに対応するため、大口径対応型の地盤改良機4台(DHJ-35を2台、GI-130を2台)を導入し、施工にあたりました。



### 苦労した点と乗り越え方

#### チーム力で成し遂げた過去最大級の地盤改良

一番苦労したのは、当社にとって過去にない最大級の地盤改良工事であった点です。重機4台、大型プラント2台、セメントサイロ4基のツイン体制という、通常現場の約4倍にもなる圧倒的な物理量。いかんにして安全・品質・工程を確保するかが大きな課題でした。この壁を乗り越えられたのは、現場の要となる中堅社員と、各班の全体工程をまとめる司令塔である同部署のエース社員という優秀な職員に恵まれたからです。この2名を施工の前面に配置することで、私は後方支援に徹することが可能に。全施工機のデータ管理や全材料の管理進行などに注力しました。また、元請である清水建設株式会社の皆様や、優秀な協力会社7社の皆様にも大いに支えられました。

### 印象深かった出来事

#### 多くの方の支えがあってこそ「工事完了」

今回、どれだけくじけそうになっても支えとなったのは、名古屋支店の「土岐市の清水建設株式会社様の現場を名古屋支店全員で支える。全員でやる」という言葉です。部署の大きな黒板には杭伏図を貼り、毎日の進捗を記入していました。神守研究開発センターの管理部長をはじめとする皆さんに機材の手配や修理を迅速に対応していただき、ありがとうございました。無事に工事を完了できたのも、多くの方々に支えられたおかげです。深く感謝申し上げます。

### 現場を振り返って

#### 困難な現場が教えてくれた、次なる課題と確かな成長

工事は無事に完了しました。今回の工事を通して、改良深度が10mを超えることの困難さを実感。そして杭芯自動システムの社内研修の必要性や、大口径の施工班の強化・増強といった今後の課題が明確になりました。また、安全を最優先しつつ、工程、品質、原価管理を徹底するという個人的な課題も再認識しています。清水建設株式会社の本工事に関わった皆様には、大変お世話になりました。当社、そして協力会社の全員がこの現場で学び、一人ひとりのレベルが確実に上がったと感じています。



## 社会情勢の変化にも柔軟な対応で最善を尽くす

最近気になっているのは、中東情勢に伴う原油供給や価格の上昇です。現時点で実務的な影響はまだ出ていないものの、将来的な資材の高騰やプラスチック製品の供給遅延が懸念されます。しかしながら、万が一資材の供給が滞る事態に陥ったとしても、当社は多様な工法を有しているという強みがあります。そのため代替工法を模索し、状況に応じて別の工種へシフトする営業活動を行うことで、売上確保を目指す考えです。こうした急激な変化をただ眺めるのではなく、常に先回りして柔軟に対応し、最善の動きができる体制を整えています。

## 目標共有で高まるモチベーションと社内の士気

モチベーションを保つコツは、5年後を見据えてキャリアプランを立てることにあります。具体的には、本社の「継ぐ会」が作成したロードマップに合わせ、ミッション、ビジョン、バリューに基づいた年度ごとの目標を立てて実践しています。そうした中、東京支店では今期、人材育成や社員同士・協力業者とのコミュニケーション活性化などを目標に掲げました。この指針を支店の全員で共有し方向性を統一することにより、ワンチームで協力して業務に取り組む強固な体制を構築していきます。



東京支店 営業部 部長

Nさん

Taiyo Report

# たいようレポート

## 当社は、第59期(2026年1月期)の株主総会を2026年4月23日に開催し、全5議案が可決承認されました。

- 第1号議案:** 剰余金の処分…株式配当60円/株  
57期35円、58期50円、59期60円と3年連続引上げ、60期も65円を宣言しています。
- 第2号議案:** 定款一部変更…古物営業法に基づく古物商の追加  
太陽光パネルの張替えを想定し、古物商を定款に追加しました。
- 第3号議案:** 取締役(監査等委員である取締役を除く)7名選任  
当該取締役の任期は1年、現59期8名から1名減になります。
- 第4号議案:** 監査等委員である取締役3名選任  
任期は2年につき、改選のない1名を加えた4名体制を継続します。
- 第5号議案:** 取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く)譲渡制限付き株式報酬改定  
現制度の取締役に執行役員を加え、株主様との一層の価値共有を進めます。



今後とも、当社は「安定成長100年企業」に向け、人財の確保・育成と技術の継承に取組み、生産性向上とイノベーション推進に努めてまいります。



## 全国安全週間が始まります!!

全国安全週間(7月1日~7日)は、「多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場」をスローガンに実施されます。6月の準備期間を経て、安全大会の開催や職場巡視、危険予知活動(KYK)、設備点検などを行い、労働災害の防止と安全意識の向上を図ります。近年は転倒や身体への負担による不調などの災害が増加しており、一人ひとりが主体的に安全行動を実践することが重要です。全員で協力し、安心して働ける職場づくりを推進していきましょう。